

□議員名：杉本 保喜

## 1 防災体制について

論点	西日本豪雨災害を視て、当市の現状改善項目と対策はどうか。
回答	砂防ダムの点検や今富ダムの放流は、当市の管理ではないが、これからも連携を密に対処していく。総務省からの「Lアラート」活用促進に鑑み、テレビのデータ放送「d」ボタンでの河川水位を知らせる画面に「有帆川」を入れるよう強く要望していく。

論点	指定避難所の改善状況（耐震状況、空調設備を含む）と運営(外国人の受入を含む)の対策はどうか。
回答	指定避難所の小中学校体育館は耐震化修了、空調設備はない。公民館等は耐震化未了の箇所があるが、空調設備はある。各地の災害避難状況から体育館空調設備の整備は大きな問題である。紹介された萩市避難所マニュアルを参考に当市のマニュアルを再検討していく。外国人の避難所受入では、紹介された北九州市の「指差し会話帳」や県防災ハンドブック等も活用した運用を検討していく。

論点	市庁舎の耐震改修計画が進んでいる中、災害対策本部としての機能強化はどのように具体的に図られていくのか。
回答	別棟を建て2階、屋上を使用することで津波、高潮対策に対応する予定。応急電源等の配置も燃料タンクを含め、より高い場所に設置するつもりである。

## 2 地域公共交通網形成計画について

論点	かねてより地域公共交通網の見直しを急ぐ要請があるがその進捗状況はどうか。
回答	利便性が高く、持続可能な交通体系の構築に取り組んでいる。バス路線再編計画の策定は、コンサルタントに委託し、来年3月に再編計画を策定して31年度から32年度にかけて実現していく。また、不便地域にはデマンド型交通のエリア拡大予算を計上した。全国的な利用者減少の傾向があるが、利用し易い交通体系の実現に努める。

論点	高齢者や障がい者に対する利用しやすい対策はあるのか。
回答	バリアフリー化としてノンステップバスは、90%以上であり、車いす利用者には乗務員が乗降の補助を実施している。JR施設は、バリアフリー法に基づき32年度にはJR厚狭駅に対するエレベーターの設置が行える予定である。

### 3 シティセールス推進の具体策について

論点	10月からの具体的活動において、目標と達成の具体的方策はどうか。
回答	ロゴマーク、イメージカラーについて近日披露する。これを機に施策を実施していく。10月末から11月中旬にかけて「おもてなしサポーター研修会を計画、ホスピタリティの向上に努める。「経営資源の確保・獲得」についてサポート寄付の確保について協議をしていく。

論点	市民との協働の計画とその進捗状況はどうか。
回答	スマイルプランナー制度は、登録、メリット、具体的な情報の共有の方法のほか、登録者確保のための誘導策等を検討していく。本市のファンになられた方とも協力して「スマイルシティ山陽小野田」の実現に取り組んでいける仕組みにしたい。観光客数については、観光ビジョンで33年度は130万人を挙げており達成したい。